

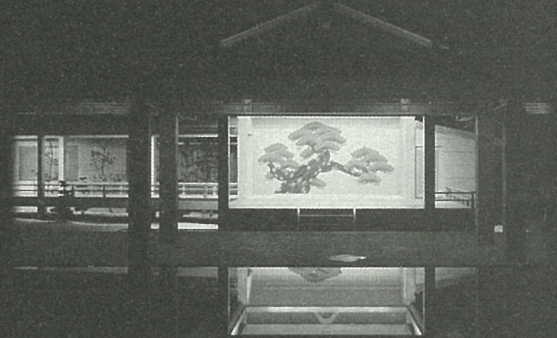


野村万作 新狂言の会

万作・萬斎親子による
コラーレ狂言の季節。

狂言 萩大名
狂言 千切木

闇に浮かぶ能舞台、
水面に揺れる二本のかがり火、
弓張月の夜、野村万作・萬斎親子が舞う――。



野村 万作



野村 万之介



野村 萬斎



石田 幸雄

2003年 8月8日(金) 開場18:30 開演19:00

黒部市国際文化センターコラーレ

野外能舞台／限定400席

- この公演は黒部市の助成により低料金に設定しております。
- 5歳未満のお子様の入場はご遠慮願います。
- 公演中の一時保育(無料)を希望される方は事前にご連絡ください。
- 雨天の場合も上演します。会場内で傘のご使用はできませんので、雨合羽等をご用意ください。

◆入場料 一般 6,000円 高校生以下 2,000円

当日は18時30分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次ご入場いただきます。
チケットはコラーレだけで発売いたします。

コラーレ

富山県黒部市三日市20番地 TEL.0765-57-1201 FAX.0765-57-1207
E-mail:info@colare.jp URL:http://www.colare.jp/
開館時間/9:30~22:30(土曜~23:00)毎週水曜日休館

主催/財団法人黒部市国際文化センター
協賛/チューリップテレビ 富山エフエム放送 後援/黒部市 黒部市教育委員会 月刊Takt

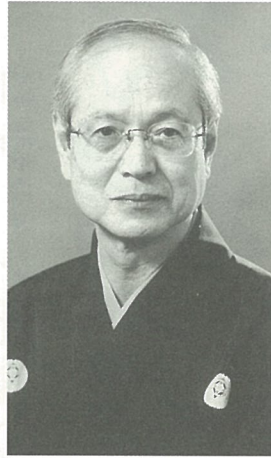
コラーレ狂言の季節

コラーレの野外能舞台は、私どもの演ずる狂言にあって、観客の座席もちょうどよく、舞台の演技と観客とがふれ合える好個の空間といつも感じています。

「萩大名」は主従、「千切木」は夫婦の力の逆転を描いた下克上のテーマの面白い演目かと思えます。孫の野村遼太の狂言小舞も観ていただくつもりでおります。

狂言の笑いは、現代にも通じる点に価値があるのだと考えておりますので、夏の一夕をリラックスして楽しんで頂ければ幸いです。

野村万作



野村万作 (狂言師)

一九三一年生れ。故六世野村万蔵の次男。祖父初世野村萬齋及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。早稲田大学文学部卒業。狂言の最高秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊国屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞など多くの受賞歴を持つ狂言界の至宝。国の内外で狂言普及に貢献。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組む。一九九四年NHKで「釣狐に挑む」と題するドキュメンタリーが放映され、多くの人々に感銘を与えた。著書に「太郎冠者を生きる」(白水社)がある。

野村万之介 (狂言師)



一九三九年生れ。故六世野村万蔵五男。父に師事。重要無形文化財総合指定者。万之介狂言の会(主宰者。狂言界の代表的演者の一人。芸術選奨文部大臣新人賞受賞。亡父の洒落な芸を継承している。「野村狂言団」万作の会)の重要メンバーとして、海外公演にもたびたび参加。また、大学の狂言サークルを指導して久しい。

野村萬齋 (狂言師)



一九六六年生れ。野村万作の長男。祖父故六世野村万蔵及び父に師事。東京芸術大学音楽部卒業。三歳で初舞台(後、三番叟)や最高秘曲「釣狐」「花子」などを披露。狂言(ござ)乃座(主宰者。国の内外での狂言公演に参加。近年は狂言の演出、脚色も務め、現代に生きる狂言師として狂言の普及を目指す。一方で映画や舞台TVドラマに出演するなど、幅広い活躍も目立つ。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡米。二〇〇三年芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。著者に萬齋でござる「狂言サイボーグ」がある。

石田幸雄 (狂言師)



一九四九年生れ。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。雙ノ会(主宰者。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。大曲の「三番叟」「釣狐」「花子」をすでに初演。また新しい作品についての試みにも意欲的な発表が多い。海外公演の経験も豊富である。



薪狂言 番組

解説 石田幸雄

小舞 海道下り 野村遼太

火入の儀

狂言 萩大名 はぎだいまよう

長らく在京した田舎大名が帰国の前に、太郎冠者の案内で、萩の花見に出掛けます。そこでは和歌を詠まされるらしく、太郎冠者は聞き覚えのある一首「七重八重九重とこそ思ひしに、十重咲き出づる、萩の花かな」を大名に教えようとしますが、とても覚えられません。そこで、その場で太郎冠者がひそかに合図を送ることに決めます。しかし、いざ庭園につくと、大名は失言の繰り返し。肝心の歌もしどろもどろで、あきれた太郎冠者は途中で退散してしまいます。一人残された大名は……。

大名 野村万之介 亭主 深田博治
太郎冠者 高野和憲

狂言 千切木 ちぎりき

連歌の初心者集会の当番になった主人が、太郎冠者に言いつけて講中(グループ)の人々を呼びにやるのですが、嫌われ者の太郎だけは呼びません。そこで太郎は、みんなが集まっているところへ乗り込んできて、悪態をつきます。怒った人々は、しめしあわせて太郎を痛めつけ放り出します。そのことを聞きつけた太郎の妻は嫌がる夫を励まし、棒(千切木)を武器に持たせ、けんかの相手の家々に仕返しに行かせるのですが……。

当屋 石田幸雄
太郎冠者 月崎晴夫
立衆 深田博治
立衆 高野和憲
立衆 竹山悠樹
立衆 破石普照
妻 野村萬齋